

みんなで乗ろう、路線バス

～市民の移動手段を守り未来へ引き継ぐために～

電車やバスなどの公共交通は、通勤・通学や通院、買い物などに利用され、私たち、特に高齢者や学生などにとって欠かせないものです。

現在、阿蘇市の公共交通はたいへん厳しい状況にあり、今後維持できるかどうかの分岐点にあるといっても過言ではありません。公共交通を維持していくためには多くの方の協力が必要です。大切な公共交通について、いま一度考えてみましょう。



「自家用車があるから、公共交通がなくても困らない」と思っていますか？

自家用車の普及に伴い、公共交通に頼らない生活が広がりました。

阿蘇市内の家庭では、それぞれが自家用車を所有しているケースもめずらしくなく、どこへいくにも自家用車で出かけ「公共交通が無くても困らない」と感じられる方も多いのではないのでしょうか。

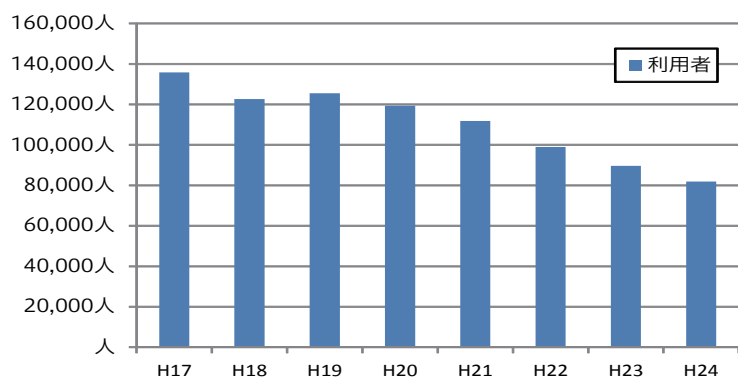
確かに運転のできる方にとって自家用車はとても便利な移動手段です。しかし、子どもや高齢者など運転のできない人は、公共交通がなければ移動が制約され、不便な生活を強いられているのです。



路線バスの利用者数が減っています

自家用車の普及によって、路線バスの利用者は減少しています。最大の要因は自家用車の普及ですが、他にも少子高齢化の進展により、路線バスなどを使って通勤・通学する人の総数が減ったことも原因の一つと考えられています。

●阿蘇市内の路線バス利用者推移



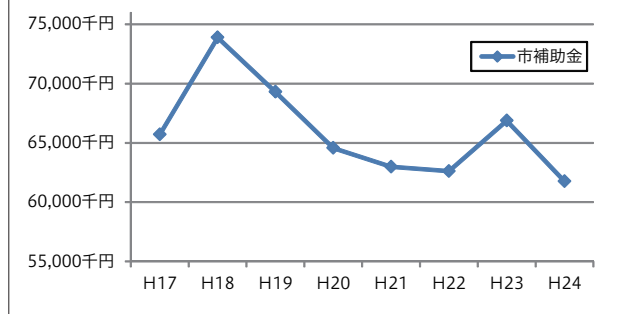


利用者減が悪循環を生む

路線バスの利用者が減ると「利用者が減る
↓赤字の路線が増える↓赤字路線から減便・
撤退↓バスの便数が減る↓不便になる（利便
性低下）↓さらに利用者が減る」といった悪
循環が生まれます。廃止や減便にならないよ
うに、自治体は赤字の公共交通に補助金を支
出するなどの施策を実施しています。

しかしながら全国の公共交通事業者の多く
は赤字が続ぎ、やむを得ず廃止や休止になる
ケースが全国で増えています。特に路線バス
は全国の事業者のうち、民間で約7割、公営
で約9割が赤字となり、毎年約2000km

●路線バスへの補助金推移



※平成18年が補助金のピークであり、以後減少しているようにみえますが、この間多くの路線が廃止され1路線あたりの補助額は増加しています。



公共交通が見直されています

（北海道稚内市から鹿児島市の距離（1810km）に匹敵）が廃止されています。
阿蘇市においても、平成17年以降、利用者の減少などから多くのバス路線を廃止することになりました。このまま利用者の減少が続くようであれば、現在ある路線さえも守ることが難しくなります。

これまで交通の主役を自家用車に奪われていた公共交通ですが、近年、様々な理由によってその存在意義が見直されつつあります。

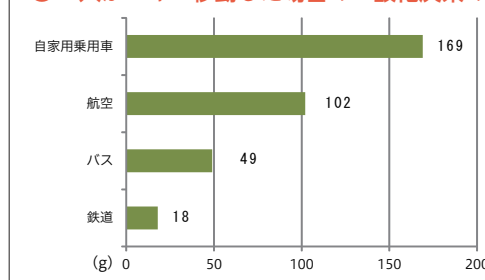
■社会構造の変化

日本社会は、超高齢化社会を迎え、車を運転しない高齢者は更に増加していくものと予想されています。また、核家族化や共働き家庭の増加などにより、身近に頼れる親族がいない方、高齢者や子どもなど自動車の運転ができない、いわゆる「交通弱者」といわれている人たちの移動手段確保が課題となっています。

現在、自家用車で生活交通のほとんどを賄っている人も、いつかは車を運転できなくなります。また、これまで近所の方や親戚の方

の送迎を頼りにしている人も、いつまでも頼れる方が近くにいないと、は限りません。車の運転ができない、頼れる人もいない、そんなとき買い物や通院はどうなるのでしょうか？

●1人が1キロ移動した場合の二酸化炭素の排出量



今住んでいる地域に将来においても安心して住み続けることができるよう日常生活に必要な公共交通を確保しておくことが非常に重要になってきています。

■環境問題（地球温暖化など）

地球温暖化の一因とされているものは温室効果ガスといわれるもので、その代表的なものが二酸化炭素です。

人や物が移動することで発生する二酸化炭素は排出量全体の約2割を占め、うち約9割は自動車から排出されています。公共交通は一度に大勢の人を効率よく運ぶことができるため、自動車に比べて二酸化炭素の排出量が少なく、環境に優しい交通手段として評価が高まっています。



ご存知ですか？

免許証返納で、
バスが半額で利用できます。

65歳以上の方で、運転免許証を自主的に返納した方は、「免許返納割引乗車証」を提示することでバスを半額で利用できます。
取得方法など、詳しくは、産交バス阿蘇営業所（☎34-0211）へお問い合わせください。

阿蘇市に路線バスが走っているのは知っているけど、どこへ行けるかわからない、利用したいけど乗り方がわからないと思ったことはありませんか？そこで、4月から路線毎に番号と色をつけて、どのバスがどのルート进行を走っているのか、わかりやすい表示をしています。

バスに乗ると、日ごろ何気なく通っている場所が、いつもの景色と違って見えてとても新鮮です。ぜひ、みんなで路線バスを活用してみてください。



▲一目でわかるバスの表示。

路線バスがわかりやすくなりました！

○路線名と経路一覧

番号	色	路線名	経路
1	赤	阿蘇市環状線	阿蘇駅 ⇒ 内牧 ⇒ 宮地 ⇒ 阿蘇駅
2	黄	阿蘇市環状線	阿蘇駅 ⇒ 宮地 ⇒ 内牧 ⇒ 阿蘇駅
3	青	内牧駅線	阿蘇駅 ⇔ 内牧 ⇔ 内牧駅
4	紫	山田線	阿蘇駅 ⇔ 宮地 ⇔ 山田 ⇔ 内牧
5	オレンジ	阿蘇駅－内牧線	阿蘇駅 ⇔ 内牧
6	ピンク	うぶやま環状線	宮地駅 ⇔ 笹倉 ⇔ 産山村 ⇔ 宮地駅
7	緑	阿蘇－杖立線	阿蘇駅 ⇔ 大観峰入口 ⇔ 杖立

※詳しくは、別途配布しております「阿蘇市内路線バス時刻表」及び「阿蘇市路線バス案内図」をご覧ください。

Interview

公共交通機関の必要性を考えてもらいたい。

地域交通あり方検討会で議論していく中で、それまで「空車ばかりが目立つ路線バスはもったいない」という気持ちを抱いていましたが、路線バスに実際に乗ってみて、絶対に公共交通は残すべきだと、必要性を強く感じました。

少子高齢化時代を迎え、これまで自家用車に頼り切っていた人々も、いずれは車を運転できなくなる状況が必ずやってきます。また、災害など予想しえない状況になった時に、市民の交通手段を守るのは公共交通しかありません。そういった現実的な面を市民一人ひとりが真剣に考えてもらい、ぜひ多くの皆さんに路線バスを利用してもらいたいです。



地域交通あり方検討会
元委員 長尾 章さん（北2区）

Interview



産交バス株式会社 阿蘇営業部
部長 緒方 信也さん

地域に密着した、思いやりのあるサービスの提供を。

全国的に少子高齢化が進展する中、バスご利用のお客様が減少しており阿蘇市においてもその点が課題となっています。

一方、阿蘇市の路線バスには、車内外における人と人とのつながりや出会いが多くあり、他では味わうことのできない和やかな雰囲気があります。また、バスの車窓から見渡せる大パノラマを堪能できることも阿蘇の魅力で、ぜひ楽しみながら乗っていただけたらと思います。

なお、4月から行き先をわかりやすくするために、路線ごとにバスの車体に番号表示をしたところ、利用者の方々から好評をいただいています。

今後は、学校等に出向き定期券、乗車券類の紹介や販売促進を積極的に行い、バス利用促進に努めてまいります。また、関係機関と連携しバスの乗り方教室等を計画し、身近な乗り物として関心を持っていただけたらと期待を寄せています。

お客様を安心、安全、快適に目的地までお送りすることがバス事業者の最大の使命であり、今後も親切、丁寧をモットーに地域住民から必要とされる交通手段として思いやりのあるサービスを提供してまいります。

みんなで使って、みんなで支える。

市民の生活を支えるうえで大切な「公共交通機関」は、通勤、通学、買い物など自家用車の利用が増えた今も誰もが自由に活動するためになくてはならないものです。

今後、さらなる人口の減少や高齢化の進展が予想されており、公共交通の果たす役割は益々大きくなっていきます。

これまで、「公共交通機関」は事業者が中心となって支えてきましたが、これからは、市役所はもちろん、市民、商店街、企業、医療機関など地域全体で支えていく新しい時代に入っています。

一人ひとりが地域や環境の将来を考え、公共交通の重要性を認識し「みんなで使ってみんなで守る」という意識をもち行動することが求められています。

問い合わせ 財政課 企画係 ☎22 - 3204